

# **FortiGate**

**冗長構成簡易セットアップ資料**

**対応OS v3.0以降**

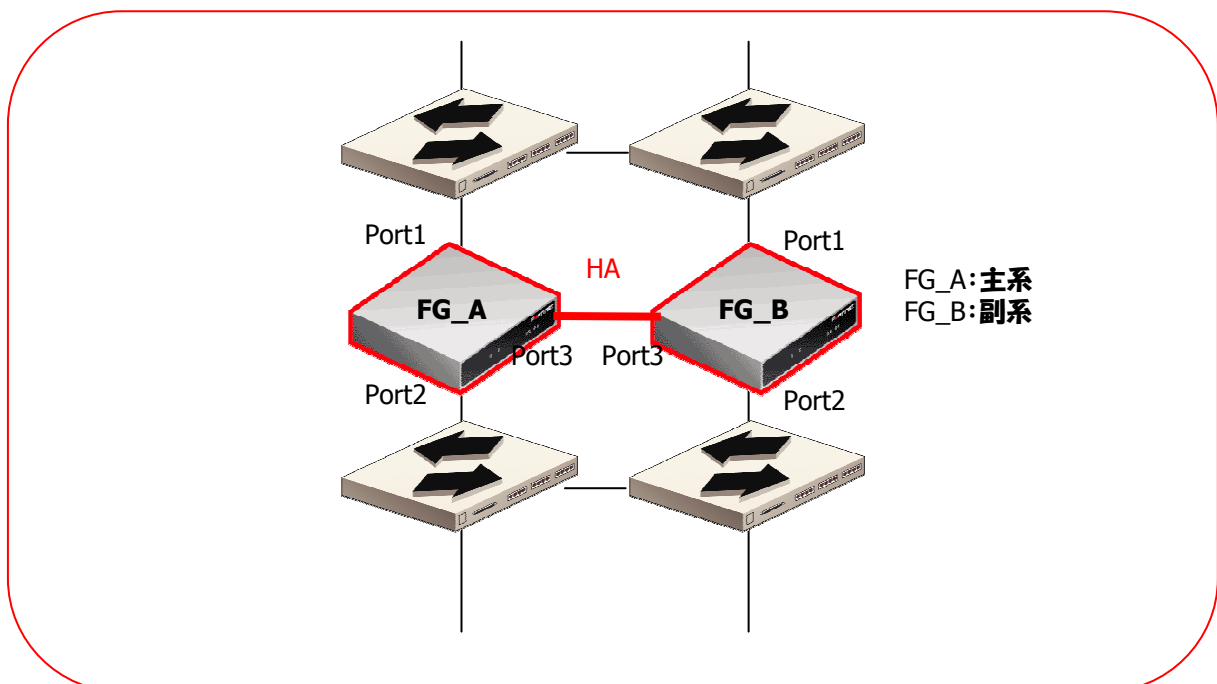
2010/1/5 rev1.0

## HAの設定

構成例の環境で冗長構成 (Active-Standby) を構築する場合の必要な設定について解説致します。

\* 透過モード、NAT/Routeモード共通

### 構成例



注)

NAT/Routeモードでは単体で動作していた時のインタフェースのIPを実IPをVIP使用します。

透過モードでは、単体で動作していた時の管理IPが継続して利用可能です。

また、FG\_AとFG\_Bではコンフィグが同期しているためActiveの切り替えが発生したあともFortiGate配下の機器から見たFortiGateのIPが変わることはありません。

WebUIにて System > config > HA にアクセスし下記設定を冗長化を行う全ての機器に行います。

High Availability

Mode: Standalone ← ①

Device Priority: 128 ← ②

Cluster Settings

Group Name: FGT-HA ← ③

Password: ← ④

Enable Session Pick-up ← ⑤

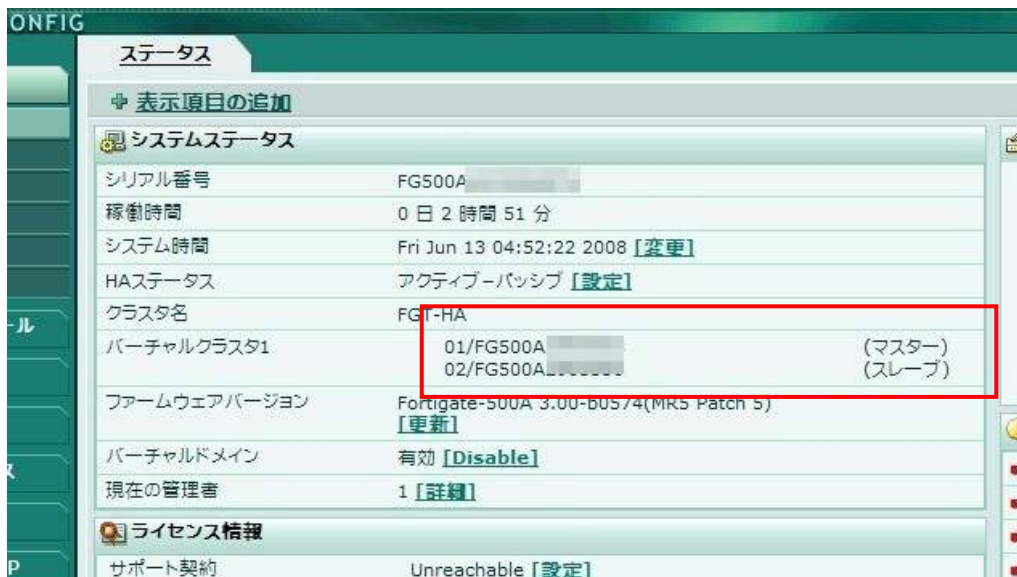
	Port Monitor	Heartbeat Interface	
		Enable	Priority(0-512)
port1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0
port2	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0
port3	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	50
port4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	50
port5	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0
port6	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0
port7	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0
port8	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0
port9	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0
port10	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0

⑧ → OK Cancel

- ①HA動作モード: アクティブ-パッシブを選択
- ②Device Priority: Active選出基準で使用  
(ここではFG\_A > FG\_B になる様に設定)
- ③グループ名: クラスタ間の機器で共通のものを指定(任意)
- ④パスワード: クラスタ間の機器で共通のものを指定(任意)
- ⑤F/Wセッション引継: Active切り替わり時のF/Wセッション引継ぎ有無の指定(任意) \*引き継げるセッションには制限がございます。
- ⑥監視ポート: 設定したポートがDownした場合Activeの切り替わり発生  
(ここでは通信用のPortで使用するPort1、Port2を指定)
- ⑦ハートビートポート: 冗長に必要な情報のやり取りを行うポートを指定  
(ここでは機器同士を直接接続するPort3を指定)
- ⑧『OK』をクリックし設定を反映させます。

設定完了後、冗長用Portに指定した機器のPort3同士を接続すると冗長構成が確立されます。

冗長構成が確立できた場合、WebUIのTOPにて冗長構成を行っている機器のシリアルが確認できるようになります。



•冗長構成が確立できた場合、WebUIのTOPにて冗長構成を行っている機器のシリアルが確認できるようになります。

•冗長構成確立後は機器の設定が自動的に同期します。

\*ホスト名・HAのDevice Priority除く